

IV-250

都市的サービス施設の

立地パターン変化に関する研究

福井大学大学院○学生員 英 清治

福井大学工学部 正会員 川上 洋司

福井大学工学部 正会員 本多 義明

1. はじめに

現在、福井市をはじめとした地方都市において、人口のみならず都市機能の郊外化という都市構造変化が進展してきている。これは道路交通網整備、モータリゼーションの進展等により、人々の行動パターンが自動車依存型に移行してきたことと軌を一にしていることは間違いない。問題はこうした地方都市における郊外化現象が都心部の過密化ゆえに生じているのではなく、十分な機能集積の余地を残しながら進展していることにある。都市としての魅力・活力の向上、都市基盤の有効利用などを考えると、こうした都市構造変化をなんらかの形でコントロールしていくことが必要とされよう。そこで、本研究ではこうした視点に立ち、地方都市の郊外化現象そのものを詳細に捉えようとするものであり、都市的サービス施設と考えられる個々の施設に着目し、その立地動向、立地性向の変化を明らかにする。なお、現状における諸施設の急激な郊外化の進展、業種・業態の多様化に対し、その現象を捉えるために、データ・ソースとしてはその施設分類が詳細に成されており、その所在地が得られるとともに、情報が毎年更新されるという特徴をもつタウン・ページ（職業別電話帳）を用いることとする。

2. 郊外化現象の実態

福井市を対象に都市的サービス施設と考えられる施設（ここではとりあえず11施設を抽出）を取り上げて、昭和56年、昭和61年、平成3年のタウンページ（職業別電話帳）を用いて、それぞれの年次における各施設の所在地に関するデータ・ベースを作成した。これより、都市計画基礎調査のゾーニングに基づく都心部、都心周辺部、郊外部別に集計し、郊外立地比率の推移を見たのが図-1である。これより居住人口の郊外化もさることながら、それ以上の速度で殆どの施設が郊外部での立地比率を増大させていることが分かる。特に寿司店、喫茶店をはじめ、耐久消費財としてのカメラ店、銀行等においても郊外立地比率の伸びが急激であり、施設の立地性向がフットルース化へと大きく変化していることを示している。

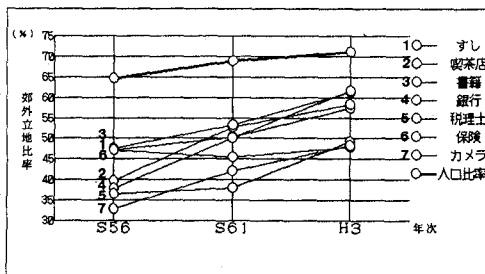


図-1 郊外立地比率の推移

3. 都市的サービス施設の立地性向

都市空間内での諸施設の立地性向の特性、その変化を捉えるために、ここでは以下に示す相対立地強度という尺度を設定した。

相対立地強度： X^{k_i}

$$X^{k_i} = \frac{n^{k_i}}{a_i} \div \frac{N^k}{A}$$

A：全ゾーン面積

 N^k ：施設k全立地数 a_i ：ゾーンi面積 n^{k_i} ：ゾーンiにおける施設k立地数

この尺度は、空間的に見た場合の「全市域平均立地密度に対する各ゾーンの相対的な立地の程度」を示す尺度であり、施設ごとに相対立地強度のゾーン間の分散の程度を見ることによって、施設間の立地性向の違いが捉えられる。また、その時間的推移を見ることによって立地性向の変化が捉えられる。つまり分散が大きいことは施設が空間的に見て偏在的に立地していることを示し、小さいことは均一的に立地していることを示す。図-2、3はそれぞれ平成3年における喫茶店と書籍の相対立地強度の分布を示したものである。これによると相対的に見て依然として都心立地指向の高い施設と、既に分散的に立地している施設とが存在することが分かる。しかしながら、過去10年間の施設別立地性向の変化を相対立地強度の分散の推移（図-4）によってみると、ここで取り上げたいずれの施設においても分散が減少しており、立地密度が均一化しているという傾向が把握できる。特に喫茶店、寿司店、カメラ店といった施設の立地性向が均一立地化へと大きく変化していることが指摘される。このことは郊外への立地展開といっても集積的立地指向ではなく、広域的に分散立地していることを示している。

4. おわりに

本研究は詳細な分類による都市的サービス施設の立地動向に着目した都市構造分析の一試論である。今回その小分類を行うにあたって、簡易に情報収集できるデータ・ソースとしてタウン・ページを用い、その活用の可能性を示した。また、施設別の立地性向を捉えるための尺度として相対立地強度を用い、それによって諸施設の立地が都心偏在的ではなく、郊外にむかって分散的に立地しつつある状態を明らかにした。しかし、今回は限られた施設しか取り上げていないので、対象施設を拡大し、都市的サービス施設全体の立地性向の把握を行っていくことや、他都市についても同様の分析を行い、都市間比較を行っていくことが必要であると考えます。

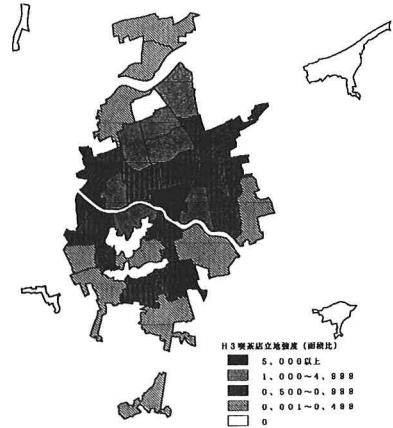


図-2 相対立地強度の分布（H3、喫茶店）

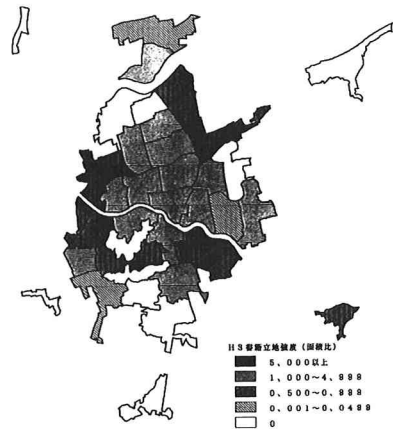


図-3 相対立地強度の分布（H3、書籍）

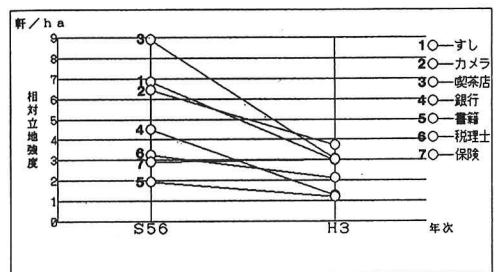


図-4 相対立地強度の分散の推移